

— 第 925 回九大原子核セミナー —

講師： 中村 純 氏 (大阪大学 RCNP)

演題： 道具としての格子 QCD シミュレーション

日時： 6 月 3 日 (水) 16:30 ~

† 今回は通常と曜日が異なりますのでご注意ください

場所： 理学部 物理大学院講義室 (理学部 2 号館 2 階 2263 室)

概 要

格子ゲージ理論は、もっとも健全な場の量子論のカットオフを持ったゲージ理論の定式化であることに加えて、強結合展開により閉じ込めという非摂動的性質を示せることが Wilson によって示された。その後、Parisi らによってハドロンのプロパゲータが数値的に計算できることが示され、ハドロン物理学の基礎的な道具となった。現在でも、低温高密度系の計算、非平衡系の定式化など未解決な問題は多いが、ハドロン系を第一原理計算によって取り扱う枠組みを与えている。ハドロン系の研究という観点から見た格子 QCD の歴史と現状について報告する。

連絡先: 九州大学 理学部 物理学教室 理論核物理研究室

TEL: 092-642-2111 (内線 8357)

渡邊 慎 (s-watanabe@phys.kyushu-u.ac.jp)

平成 27 年 6 月 2 日